

編集後記

こちらの編集後記には何を書いても良いとのことでしたので、執筆の依頼をいただいてからしばらくは趣味の登山(もっとも、最近ハイキング程度ですが)の話でも書こうかと考えていました。しかし、締め切り直前にベトナムの大学で集中講義をするという仕事があり、刺激を受けたのでそちらの話をしたと思います。

私の所属する大学では、ベトナムにあるいくつかの大学と提携しており、現地で集中講義を実施します。私の順番が回ってきたので、一月のはじめころからベトナム入りをして講義を行ってきました(ベトナムでは旧正月を祝うため、日本のお正月前後は特に休みではありません)。現地大学では1コマが50分の授業で構成され、それを4日間で32コマ(!)の集中講義を行うため、朝から夕方までみっちり詰まっており、教員と学生の双方にとってなかなかハードなスケジュールでした。それにも関わらず学生は終始熱心に講義を受けてくれていたのが印象的でした。また、ホーチミン市内で集中講義を行った大学とは別の大学の訪問も行

い、施設等を見学させていただいたのですが、外国企業の支援を受けた充実した装置の数々がありました。それらの装置を用いた教育が職業訓練に直結する側面があるようです。自分とはほぼ同じ年齢の昭和生まれの装置を学生実験で使用している私としては多少の羨望もありつつ(もちろん、新しく高価な装置を使うことが質の高い教育を意味する訳ではありませんが)、時代や地域に合った教育について改めて考えるきっかけとなりました。最近ChatGPTをはじめとする生成AIが広く利用されるようになってきており、そのような背景からも時代に合った教育については思うところがありますが、この点についてはまた別の機会に譲りたいと思います。本稿の文字数制限も近づいてきましたので、この辺りで筆を置かせていただきます。

なお、冒頭の登山の話の方を読みたかったと思われた読者の方については私までお声がけいただければ幸いです。学生の頃によく縦走した日本アルプスや、現在私が住んでいる新潟県の山々の魅力については是非意見交換をさせていただきたいと思います。(高橋一匡)

プラズマ・核融合学会 役員

会 長：花田磨砂也
副 会 長：大野哲靖 坂本瑞樹(推薦委員長：学会賞・男女共同参画委員長)
常務理事：榊原 悟(総務委員長)
理 事：渥美寿雄 居田克巳 稲垣 滋(企画委員長) 井 通暁(年会運営委員長・研究部会連絡委員長)
大原 渡 兒玉了祐(広報委員長) 古閑一憲(支部・地区研究連絡会委員長)
坂本克也 仙波智行(財務委員長) 高木浩一 高橋幸司(企業展示検討委員長)
田中康規 鳥養祐二 村上 泉(編集委員長) 山田弘司(推薦委員長：研究助成)
吉田麻衣子
監 事：前田達志 波多野雄治

プラズマ・核融合学会 領域長

基 礎 大原 渡(山口大) 応 用 田中康規(金沢大) 核融合プラズマ 居田克巳(核融合研) 核融合炉工学 渥美寿雄(近畿大)

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：村上 泉(核融合研) 副委員長：鳥養祐二(茨城大)
エディタ：三瓶明希夫(京都工繊大)、重森啓介(阪大)、高橋裕己(核融合研)、石澤明宏(京大)、大矢恭久(静岡大)
編集委員：伊藤 悟(東北大)、犬伏雄一(JASRI)、太田雅人(核融合研)、小田靖久(摂南大)、梶田 信(東大)、
葛山 浩(鳥取大)、河内裕一(名大)、熊谷公紀(QST)、篠原正典(福岡大)、白戸高志(名大)、鈴木陽香(名大)、
瀬戸春樹(QST)、曾根宏隆(豊田自動織機)、高橋一匡(長岡技科大)、武村勇輝(核融合研)、中村友祐(名大)、
成田絵美(京大)、難波慎一(広島大)、沼波政倫(核融合研)、信太祐二(北大)、浜地志憲(核融合研)、
廣田 真(東北大)、松岡清吉(QST)、文 贊鎬(九大)、本島 巖(核融合研)、柳生義人(九大)、山崎広太郎(広島大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第102巻第2号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2026年(令和8年)2月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: https://www.jspf.or.jp/ 定価1,430円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。